

# 身近な地質スポット

## 岐阜県土岐市・瑞浪市／「東濃鉱山/月吉ウラン鉱床」

今回は、岐阜県土岐市と瑞浪市の境界に位置する東濃鉱山を紹介します。

現在、東濃鉱山は役目を終え閉山されています。その役目は、ウラン鉱床の形態や品位分布状況を明らかにすることでした。

1964年からウラン鉱床の探鉱を開始し、1972年より東濃鉱山にて調査立坑が掘削されました。

しかし、商業採掘に期待される品位0.1%に満たない、0.06%前後の低品位であることが明らかとなり、1986年からは地層科学研究の場として、主に堆積岩を対象に岩盤中の物質移動に関する研究等を実施していました。

2004年に坑道を利用した調査研究は、所期の目的を達成したことから休止鉱山とし、2010年から閉山措置を実施しています。

2014年に坑道の充填が完了、2016年には主な地上施設の解体撤去が終了しました。その後は周辺環境のモニタリングを実施し、異常のないことが確認できたため、2019年度をもって終了しています。

東濃地域には土岐市を中心に広い範囲にウラン鉱床が分布しており、東濃鉱床と呼ばれ、「月吉ウラン鉱床」に代表されます。ウラン濃集部は、中新世の堆積層である瑞浪層群の下部に位置します(図-1)。

成因は、土岐花崗岩から溶脱したウランが上位層において吸着・集積したものとされています。

東濃鉱床のウラン埋蔵量は、日本国内の60%を占めるといわれ、東濃鉱山(月吉ウラン鉱床)だけでも40%に及びます。しかしながら、全世界の埋蔵量に対し、0.1%に満たないのです。

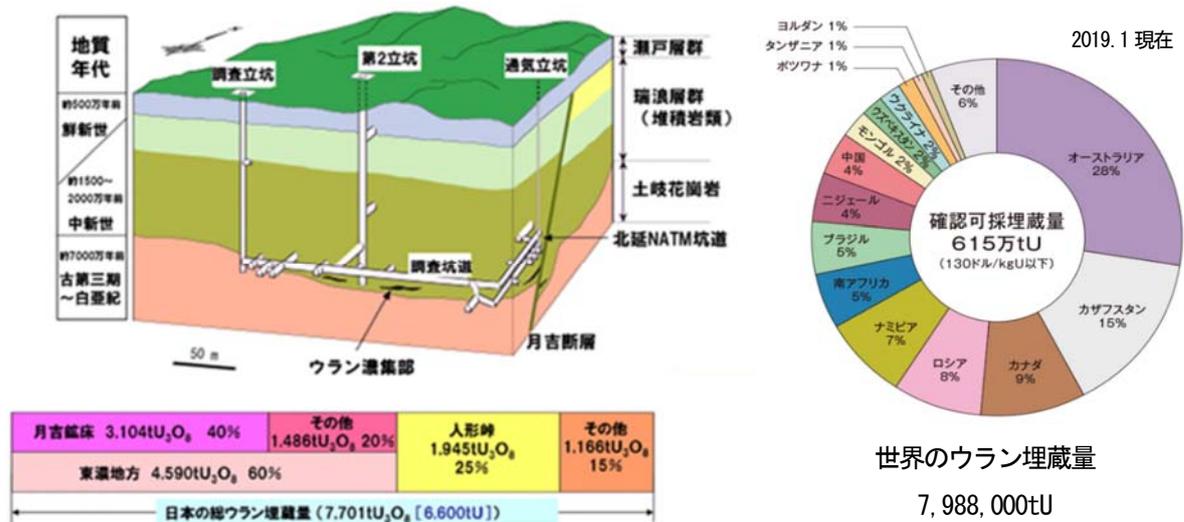


図-1 月吉ウラン鉱床／構造模式図とウラン埋蔵量

出典：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構「東濃地科学センター」HP、一般財団法人日本原子力文化財団 HP

関連して、東濃地域には、日本原子力研究開発機構の東濃地科学センター（土岐地球年代学研究所、瑞浪超深地層研究所）があり、高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する基礎研究や、地球科学に関する研究を行っています。

土岐地球年代学研究所では、高レベル放射性廃棄物の最終処分事業や国の安全規制に必要な科学的知見や調査・評価技術を提供するため、「地球環境の長期安定性に関する研究」を進めています。

瑞浪超深地層研究所では、深度500mの立坑が掘られ、研究開発が行われてきましたが、成果を上げることができたことから、2019年度をもって研究開発を終了しています。

現在は坑道の埋め戻し、地上施設の撤去が終了し、地下水の状態を確認するための環境モニタリング調査を実施しています。

日常生活に欠かせない電気、その電気を生み出す発電所、発電所に欠かせない燃料や技術、その燃料や技術を調達するための調査・研究がこの地域で行われてきたのです。

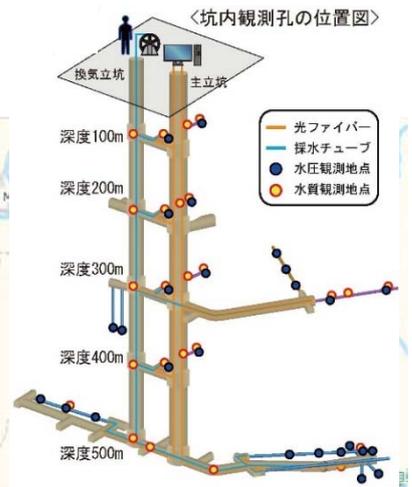
余談ですが、

この地質スポットの近くにはこんなお店があるそうです。

### 支那そば「満天一高家」



### 瑞浪用地/坑内観測孔位置図



### 瑞浪超深地層研究所



### ▼土岐地球年代学研究所／施設見学

お問い合わせ先・施設見学申込書送付先

TEL : 0572-53-0211 (電話受付時間平日9 : 00~12 : 00、13 : 00~16 : 00)

FAX : 0572-55-4114

MAIL : tono-shisetsukengaku@jaea.go.jp

郵送先 : 〒509-5102 岐阜県土岐市泉町定林寺959番地の31 総務・共生課 宛

### ベータウランフェン

鮮黄色部分 母岩：アプライト



産地：土岐・瑞浪市

### リンバリウムウラン石

淡黄色部分 母岩：凝灰質泥岩



出典：地質調査所報告第232号「日本におけるウランの産状その2」S44.3

### センウラン鉱

黒色斑点部分 母岩：砂質凝灰岩



### 支那そば 満天一高家



場 所：岐阜県瑞浪市北小田町3-96

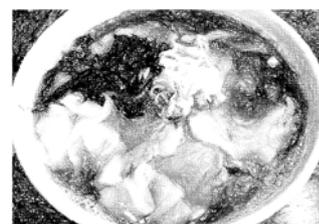
営業時間：11:00~14:00、17:00~翌1:00

定休日：火曜日

瑞浪市内の国道19号線沿い、恵那方面に向かって左側にある老舗の支那そば屋です。

焼肉屋と並列して営業されています。

メニューはシンプル、具材で4種類、普通、大盛、特大、超大盛が選べます。あとは飛騨牛(黒タン)の定食、お酒、おつまみがあるみたいです。



ワンタン支那そば

スープは鶏ガラベース、魚介が効いて透き通った和風醤油テイスト、麺はちじれた細麺です。ワンタン、支那竹、チャーシュー、どれにしようか。迷ってください。私なら「ワンタン支那そば」にします。ワンタンの皮がツルツルな感じでおいしそう。